

稚児行列の意義

祭礼・法要などの行列に参列することである。稚児はやがて次の世代を背負う。いつまでも子供であるわけではない。行列に参加するには着がざる。可愛いと声をかけてもらい、いつもとちがう尊敬される気持ちをもつ。さらに、行列をつくって歩く。暑い、その中でも「人々からがんばって」と声をかけられたりする。親も一緒に歩いて



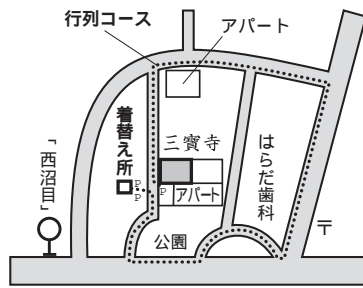
くれる。終わったなら「よくやったね」とほめられる。

達成感を人生の中であじわうのである。記念写真をもって一生の語りあえる親子の絆が生まれるのである。

三寶寺は、稚児行列をもって、阿弥陀如来像の安置のため住職と共に先導してもらった。

雨天の時は、本間の阿弥陀如来像前で記念写真をとって終了である。参加希望者は、三寶寺にお子様のお写真を確認の上電話でお申込下さい。

稚児行列のコース



江里康慧氏よりのお手紙

三寶寺

目崎法薫御住職様

花伝坊守様

南無阿弥陀仏

梅雨の候、ご清祥の御趣きと拝察申し上げます。

五月七日は貴寺ご本尊様奉渡の儀とご来所賜り、古式に則り厳肅にお迎え

賜り、感動させて頂きました。その上重々にして過分なるご厚情を頂き御礼の言葉もございません。心より厚く御礼申し上げます。

積年の念願としてこられました中心でご本尊様をお迎えになられ、今後益々の仏法興隆と寺門のご隆盛を念じ上げます。

江里様手紙有難うございました。

合掌

しんらんさまかるた

親鸞聖人のご生涯を題材にした「しんらんさまかるた」(すずき出版・工藤市郎絵)をご紹介します。聖人のご生涯、御教えにふれていきます。

よしみずを
たずねた
しんらんさま



六角堂の参籠で、聖徳太子の夢のお告げを聞かれた親鸞さまは、東山吉水の禅房へ初めて法然上人をお訪ねになりました。法然上人との出会いこそ、親鸞さまの人生を変えた、大きなできごとだったので。

ほうねんさまの
おしえのままに



知恵第一と言われた法然上人の念仏の教えは、京都で評判になっていました。親鸞さまは六角堂から東山吉水の法然上人のもとへまた百日通い続け、ついに上人の仰せになるままに、お念仏の道へ入ることを決断されました。

もくてき
たてて
しつかりはげむ



親鸞さまの確信に満ちた信仰は、そのまま聖人の人生でありました。法然上人の教えのままに、幾多の逆境にも屈せず、ただひたすらにみ仏さまや先師のご恩とよろこび、晩年に至るまで、大きな目的に向かって力強く生き抜かれました。

はつきりいます
じぶんの
かんがえ



吉水の草庵でお弟子達が信仰のお話をしておられた時、親鸞さまは「私の信心と師法然上人の信心と同じです」と言われました。みんなは「そんな馬鹿なことはない」と咎めましたが、親鸞さまはただ一人、自分の正しいと思う考えを主張されました。